

FINANCIAL SERVICES AGENCY



金融庁
採用ページへ

<https://www.fsa.go.jp/common/recruit/>

金融庁

FINANCIAL SERVICES AGENCY

採用案内

RECRUITING
GUIDE 2022

TOP MESSAGE

20歳の金融庁

氷見野良三
HIMINO RYOZO
金融庁長官

金融庁はまだ若い役所です。できたばかりのころは大混乱で、人が足りないどころか文房具まで足りない状態でした。20年余りを経て、仕事をする環境は整ってきましたが、草創期のベンチャー的な色彩は残っていて、「何を指して、どう仕事をするのか」、「どんな文化の組織にしていけるのか」、依然試行錯誤を続けています。

金融庁の仕事は、地球の裏側とも、地域の経済とも、みなさんの老後の生活とも直接深くつながっていて、しかも、つながりかたが日々変化しています。金融庁自身も日々自己変革していかなければなりません。

金融庁の職員が議長を務めている国際会議は現在25あり、夕方になると庁内のあちこちからビデオ会議の英語が聞こえてきます。金融機関・自治体・大学・他省庁の約2000名の有志とのネットワークを築いて、地域の課題の解決策について議論しているチームもあります。

金融庁は未完成な役所です。今後も多分ずっと普請中です。明日の金融行政と一緒に作ってくれる仲間が来てくれるのを待っています。

経済の心臓を動かす。

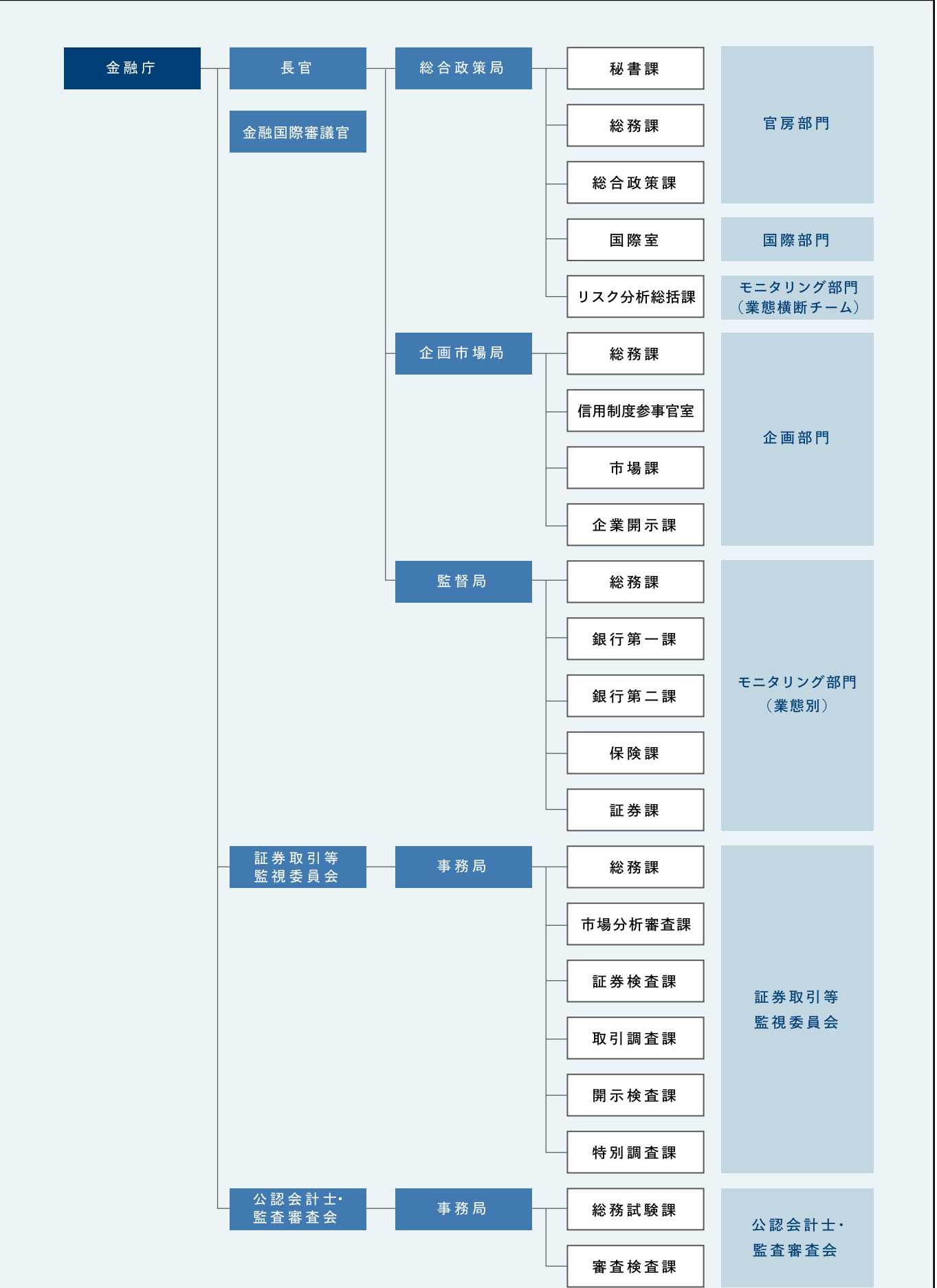
RECRUITING GUIDE 2022

INDEX

- p.02 長官からのメッセージ
- p.04 部門紹介 目次
- p.05 組織図
- p.06 官房部門
- p.08 国際部門
- p.10 企画部門
- p.12 モニタリング部門（業態別）
- p.14 モニタリング部門（業態横断チーム）
- p.16 証券取引等監視委員会
- p.17 公認会計士・監査審査会
- p.18 キャリアパス 目次
- p.20 係長×係員 対談
- p.22 課長補佐
- p.24 室長
- p.26 出向について
- p.28 国内・海外留学について
- p.30 ワークライフバランス
- p.32 研修制度
- p.33 自主的な政策提言
- p.34 採用案内
- p.35 採用チームからのメッセージ

MEASURES and POLICIES [contents]	官房部門 p.06 金融庁の「司令塔」。
国際部門 p.08 グローバルに課題解決をリードする。	企画部門 p.10 金融の最先端を考える。
モニタリング部門（業態別） p.12 育成と規制のバランスを考える。	モニタリング部門（業態横断チーム） p.14 専門性を活かしたモニタリング。
証券取引等監視委員会 p.16 市場の番人として。	公認会計士・監査審査会 p.17 適正な企業財務情報の開示へ。

組織図



官房部門

金融庁の司令塔。

官房部門は、金融庁の業務が円滑に遂行されるよう、部局横断的な視点から、組織のマネジメントや全体的な政策決定などの業務にあたっています。

具体的には、予算、機構・定員、人事、システム整備など、中長期的な組織のあり方を考えるとともに、職員一人ひとりが「国益への貢献」を追求し、困難な課題にも主体的に取り組んでいく中で高いパフォーマンスを発揮できるよう、組織の「縁の下の力持ち」としての役割を果たしています。

同時に、金融庁全体の司令塔として、これからの日本の金融のあり方を見据えた金融行政の基本的・総合的な方針を策定するほか、金融行政の各分野に幅広く関係する業務（国会・官邸との連絡調整、広報、市場動向・経済情勢の分析、金融経済教育、金融税制の企画立案、サステナブルファイナンス、国際金融センター、金融デジタルイゼーション、EBPMなど）の指揮・調整を行っています。

刻一刻と変化していく金融のフィールドにおいて、的確な行政対応を行うためには、組織としての力を最大限発揮することが重要です。職員一人ひとりの専門性を高めることや、各部局の連携を強化することによって、組織の対応力を高めています。

2007年入庁

澤村 泰行

SAWAMURA Hiroyuki



INTERVIEW 01

総合政策局総合政策課
金融税制第二係長

皆さん、税制改正要望をご存じですか。私は、金融庁の税制改正要望の取りまとめを担う部署で働いています。

金融庁では、税制面でも、より人の役に立つ金融を目指すべく、金融に関する税制を改正するための要望を毎年行っています。

税制改正のプロセスでは、金融庁の要望について、必要性や実現可能性等の様々な観点から審議されます。その過程では、時に激しい議論も行います。こうした議論等の末に認められた要望は、所定のプロセスを経て、税法の改正という形で実現されます。

例えば、「NISA（少額投資非課税制度）」。CMなどを見てご存じかと思うこの制度も、税制改正要望を経て、整備されました（2020年12月末時点で、約1,500万のNISA口座が開設）。

税制改正要望の仕事は、税に関する知識が不可欠です。金融庁では、税理士等の専門家を含めたチームでこの仕事に取り組んでいます。大変なことも多々ありますが、金融に関する税制の考え方という多角的な視点が求められるこの仕事をチームと共に乗り越える経験は、他では得難いものであると確信しています。

最初の動機は、少しの関心からスタートするものだと思います。この文章を読んで、少しでも関心を持ってくれたら、幸いです。

CAREER STEP

2007.4	監督局銀行第二課	2015.7	総務企画局企業開示課公認会計士企画係長
2009.7	監督局総務課	2017.7	日立製作所（出向）
2010.7	総務企画局政策課金融税制室	2019.7	総合政策局総合政策課総務係長
2012.7	総務企画局政策課総合政策室主査	2020.7	総合政策局総合政策課金融税制第二係長
2013.7	早稲田大学大学院会計研究科（留学）		

INTERVIEW 02

総合政策局総合政策課
課長補佐

金融にも、環境問題や貧困、ジェンダーといった社会問題の解決につながるよう、配慮が求められる時代になってきました。英語でいえばサステナブルファイナンスです。特に今、国内外で対応が加速する気候変動問題では、CO₂排出量の削減にどう貢献できるか、世界中の金融機関や規制当局が、知恵を求められています。

私が担当しているのが、そのための政策立案です。目下、有識者会議を運営し、金融界、産業界、学者などを交えて幅広く議論いただいています。このほか、関係省庁や海外当局、環境や社会貢献に関わるNGOとも意見交換しながら、日々、刺激的な仕事を楽しんでいます。

ただ、この分野、企業の環境・社会課題への取組みが、経済全体や企業経営において避けて通れない重要課題であることはハッキリしてきたとはいえ、具体的な数字で影響や効果が測りにくいというのが難しいところ。企業の環境・社会課題への取組みが、経営上のリスクや機会にどう影響し、中長期的な企業価値にどう結び付くのか。それを表現するための開示枠組みや評価手法の開発が世界中で進んでいます。

金融行政といえば、銀行や証券会社の経営チェックだけだと思ったら大間違い。金融という切り口から、社会のあらゆる分野とつながっていけるのが、この仕事の醍醐味です。間口が広く、専門性も深いこの分野に、一緒に取り組みませんか。

CAREER STEP

2008.4	総務企画局総務課国際室	2016.7	総務企画局 IFIAR 常設事務局 設立準備室室長補佐
2010.7	米・ロチェスター大学（留学）	2017.7	IFIAR 事務局（出向）
2012.7	総務企画局企業開示課上場・格付会社係長	2020.7	総合政策局総合政策課課長補佐
2013.7	総務企画局企業開示課国際会計第一係長		
2014.7	公認会計士・監査審査会事務局総務試験室室長補佐		

2008年入庁

福岡 恵美

FUKUOKA Megumi



国際部門

グローバルに 課題解決をリードする。

国際部門は、金融分野における国際的な議論への貢献
や海外当局とのネットワーク強化に取り組んでいます。

－ 国際的な議論への貢献

グローバルに新型コロナウイルス感染症の影響が拡大する中、世界の金融システムが健全性を維持しつつ中長期的に実体経済を支えぬことを後押しするため、国際基準の実施時期の延期に合意する等、必要に応じて国際的に協調した対応を取ってきました。コロナ禍からの回復を目指す中では、国際的にも、金融デジタル化・低金利環境が銀行システムに与える影響や、気候関連金融リスクへの対応などです。日本も直面するこうしたグローバルな課題の解決に向け、各国のいわば同僚と時に意見を戦わせながらも力を合わせています。各課題は実務レベルの部会で議論を重ねており、私も複数の部会に金融庁を代表し参加しています。

－ 海外当局等とのネットワーク強化

金融機関の活動がグローバル化し、海外当局との連携が益々重要となる中、コロナ禍においても、バーチャルなコミュニケーションにより、関係構築・深化に努めています。また、アジアを中心とした新興国等に金融インフラ整備支援を行い、各国の金融機能の強化に貢献することで、本邦企業や金融機関の海外におけるビジネスを支えています。加えて、新興国当局等の職員を研究員として我が国に招聘し、研修プログラムを提供していた金融連携センター（GLOPAC）を、コロナ禍でもバーチャルで開催し、さらなる“知日派”の育成に努めています。

2012年入庁

奥山 勇太
OKUYAMA Yuta

INTERVIEW 03

総合政策局総務課
国際室課長補佐（国際銀行）

世界の銀行監督当局から成るバーゼル銀行監督委員会（BCBS）を担当しています。BCBSでは、国際的に活動する銀行の健全性基準（バーゼルIII）や監督上のベストプラクティスの策定等を行っています。

金融システムは明確なボーダーがないこともあり、各国は同様の政策課題を抱えています。例えば、BCBSの足許の主要議題は、金融のデジタル化・低金利環境が銀行システムに与える影響や、気候関連金融リスクへの対応などです。日本も直面するこうしたグローバルな課題の解決に向け、各国のいわば同僚と時に意見を戦わせながらも力を合わせています。各課題は実務レベルの部会で議論を重ねており、私も複数の部会に金融庁を代表し参加しています。

コロナの感染拡大を踏まえた対応としても、BCBSは、銀行が顧客支援などに注力するためにバーゼルIIIの各国での適用を延期したり、経済的ショック時の利用が想定されている規制上のバッファの活用を銀行に促したりするなど、国際協調を図ってきました。

金融庁は、BCBS以外にも多くの国際会議に参加し、日本を含む世界経済の持続的な成長や、金融システムの安定のために知恵を絞っています。ご関心のある方が金融庁の扉を叩いてくださることを歓迎します。

CAREER STEP

2012.4	監督局総務課	2017.7	英・ウォーリック大学（留学）
2013.7	監督局総務課監督企画室	2018.7	英・ロンドンビジネススクール（留学）
2014.7	総務企画局総務課国際室国際企画係長	2019.7	総合政策局総務課国際室課長補佐（国際銀行）
2016.7	総務企画局企画課信用制度参事官室係長		

INTERVIEW 04

総合政策局総務課
国際室経済連携係長

2011年入庁

松島 由幸
MATSUMIYA Yoshiyuki

WTOやFTA/EPAといった言葉を聞いて何を思い浮かべますか。WTO？ FTA/EPA？ 金融庁に関係あるの？と思われるのではないのでしょうか。貿易といっても自動車などの目に見える物だけでなく、その物を作るための技術など目に見えないサービスも対象とされています。サービスの中でも、物が人から人へ渡る際のお金の流れである金融サービス分野については金融庁が担当しています。具体的には、日本の金融機関が海外に進出する際に役立つようなルールを、交渉を通じて実現していこうとしています。

しかし、特に発展途上国においては、自国の金融機関を保護するという観点から金融機関に対する市場開放には慎重です。そのため、交渉会合は各国の国益を懸けた真剣勝負の場となることが多く、こうした場に若くして携われるのも金融庁の魅力であると思います。

金融庁では銀行への検査だけでなく、国際交渉や金融に関する法律づくり等幅広い業務を行っています。そのため、業務をこなすのは容易ではない上、金融を取り巻く環境の変化は非常に早く、常に知識をアップデートしていく必要があります。常に静止することなく動き続ける金融の世界にチャレンジしたい皆さんを金融庁はお待ちしております。

CAREER STEP

2011.4	証券取引等監視委員会事務局取引調査課	2017.7	総務企画局市場課電子取引情報蓄積係長
2013.7	総務企画局総務課広報室	2018.7	企画市場局市場課取引所業務第二係長
2014.7	東北財務局理財部（出向）	2019.7	英・ブライトン大学（留学）
2016.7	検査局総務課モニタリング企画室	2020.7	総合政策局総務課国際室経済連携係長

企画部門

金融の最先端を考える。

企画部門は、日夜、法令をはじめとした金融制度の創設・改良を追求しています。

金融制度というと、銀行法や保険業法、金融商品取引法といった、金融機関の業務を律する法律がまず思い浮かぶのではないのでしょうか。これらは、金融機関の業務の適切性を確保することで金融サービスの利用者の保護を図るものであり、検査・監督を含む金融庁業務の根幹を成すものです。

同様に、金融市場の機能や魅力の向上も重要です。例えば、企業情報開示の充実等を含むコーポレートガバナンス改革や、企業の持続的な成長を促す証券市場構造の改革も、企画部門の主要な政策課題です。

また、フィンテック事業者によるモバイル送金の普及や、多様な金融サービスをスマホでワンストップで提供する動きなどに対応した規制の新設・見直しや、人口減少・少子高齢化に直面する地域の課題解決に貢献する役割が求められる地銀に対し、業務の選択肢を幅広く用意するため銀行の業務範囲規制の見直しなどの法整備にも取り組んでいます。

あらゆる経済活動に付随する「金融」を所管する金融庁は、刻々と変化するその姿に目を凝らし、あるべき姿と必要な政策を模索し続けなければなりません。

2014年入庁

宮内文
MIYAUCHI Fumi



INTERVIEW 05

企画市場局市場課
課長補佐

新型コロナウイルス感染症による実体経済への影響が長期化する中、企業の資金調達を支援するだけでなく、ポストコロナの新たな経済社会を見据えて、産業・企業の中長期的な改革を支援していくことが重要な課題となっています。

こうした課題を解決する上で金融資本市場が果たす役割は非常に大きく、金融資本市場を通じた企業への成長資金の供給を促すための方策について、金融機関だけでなく、ベンチャーキャピタルやプライベート・エクイティ・ファンド、スタートアップ企業、学者等の有識者など幅広い関係者と検討を進めています。

金融庁への入庁時に想像していた以上に多様な関係者と議論を行い、より良い市場制度へと最終的に落とし込んでいくことは容易ではなく、責任も感じます。しかし、日々あるべき金融資本市場、市場制度について考えることは、企画部門、市場課ならではの魅力だと感じています。

「あるべき金融資本市場、市場制度について考える」というチャレンジングな課題に、制度を考える立場から挑戦したいという方はぜひ金融庁の門を叩いてみてください。

CAREER STEP

2014.4	監督局銀行第一課	2019.7	総合政策局組織戦略監理官室主査
2015.7	総務企画局総務課国際室（国際調整）	2020.3	内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室室員
2016.7	総務企画局総務課国際室国際銀行第一係長	2020.7	企画市場局市場課課長補佐
2017.7	英・インペリアル・カレッジ・ロンドン（留学）		

INTERVIEW 06

企画市場局企業開示課
開示指導係長

私が所属する企業開示課では、主に、①企業情報の開示に関する制度（ディスクロージャー制度）の企画立案、②コーポレートガバナンス改革に関する取組み、③公認会計士・監査法人等に関する制度の企画立案、④開示書類に対する審査、などの業務を行っています。

その中で、現在、企業情報の開示の充実に向けた企画・立案業務を担当しています。企業情報の開示の充実には、投資家による適切な投資判断を可能にするとともに、投資家と企業との建設的な対話を促進する観点からも非常に重要です。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル化の加速により、ビジネス環境が急激に変化し将来の不確実性が高まる中、今まで以上に、企業情報の開示の重要性が高まっています。こうした観点から、法令等の整備に加え、企業の自主的な取組みを促すために、開示の「好事例」を取りまとめて公表するなどの取組みを行っているところです。取りまとめたあたっては、投資家、アナリスト、上場企業など、関係者が多岐にわたりますが、「より良い開示のあり方」について、多くの関係者と議論を深め、検討できることにやりがいを感じます。

また、日々新しい情報に触れる機会があり、研修・留学制度も充実しているので、自己研鑽に励む環境が整っている点も、魅力だと思います。少しでもご興味があれば、ぜひとも金融庁で働いてみませんか。お待ちしております。

CAREER STEP

2012.4	検査局審査課	2016.7	公認会計士・監査審査会事務局審査検査室
2013.7	検査局総務課	2017.4	早稲田大学大学院会計研究科（留学）
2015.7	総務企画局企業開示課	2019.4	企画市場局企業開示課開示企画係長
		2019.7	企画市場局企業開示課開示指導係長

2012年入庁

吉田圭吾
YOSHIDA Keigo



（業態別） モニタリング部門

育成と規制のバランスを考える。

モニタリング部門（業態別）は、文字通り、金融機関を業態ごとにモニタリングしている部署ですが、その業務は多岐にわたります。

具体的には、法律に基づき金融機関の免許の付与、登録を行うほか、継続的に金融機関の情報を収集・分析し、金融機関の業務・財務の健全性が確保されているかモニタリングしています。また、仮に問題の兆候が見られた場合、予防的な対応を含め金融機関と対話をして対応を促すとともに、必要に応じて行政指導や業務改善命令などの是正措置を講じ、問題が深刻化する前に早期対応しています。

このようなモニタリング等を通じ、金融機関と最前線で向き合い、対話や是正措置も駆使しつつ、金融システムの安定/金融仲介機能の発揮や、利用者保護/利用者利便等に貢献していく部門です。

なお、その対象となる業態は、（渋沢栄一が設立に携わった）設立100年を超える銀行から、保険会社、証券会社、更には暗号資産交換業者等の新たな業態まで幅広く、様々な情報に触れて、経験を積むことができることも魅力の一つです。

2004年入庁

島田 恵美子
SHIMADA Emiko



INTERVIEW 07

監督局銀行第二課
地域銀行モニタリング室主査

地域銀行の経営環境は、人口減少や高齢化の進展、長引く低金利環境に加え、コロナによる地域経済への打撃も加わり厳しさを増しています。このような状況下、地域銀行が金融仲介機能を発揮し地域経済の活性化に貢献するためには、自らが持続可能なビジネスモデルを構築し、将来にわたって健全性を維持していくことが重要となります。

こうした中、私の所属する地域銀行モニタリング室では、地域銀行の経営状況やガバナンスについて、オンサイト（立入検査）とオフサイト（ヒアリングや徴求資料の分析）を組み合わせながらモニタリングを行い、必要に応じて改善対応を求めています。また、地域銀行との対話はこれまで対面が中心でしたが、コロナの影響もありWeb会議を取り入れながら実施しています。このため、地域銀行との対話の機会が増え、これまで以上に金融機関の実態を把握し、また当局の考えを伝達できるようになったと感じています。

多様化・複雑化する金融行政に対応するには、日頃から情報収集と自己研鑽が欠かせませんが、その分やりがいもひとしおです。皆さんも霞が関にしながら地域銀行のモニタリングを通じた地域経済の活性化に携わってみませんか。

CAREER STEP

2004.4	総務企画局総務課	2011.7	検査局総務課金融証券検査官
2006.4	監督局総務課コングロマリット室	2013.7	関東財務局理財部金融証券検査官（出向）
2007.7	監督局総務課郵便貯金・保険監督参事官室	2015.7	総務企画局総務課人事企画係長
2008.7	検査局審査課	2017.7	監督局総務課協同組織金融信用金庫第二係長
2010.7	総務企画局総務課服務第二係長	2019.7	監督局銀行第二課地域銀行モニタリング室主査

INTERVIEW 08

監督局銀行第一課
企画係長

銀行のモニタリングというと、何を思い浮かべるでしょうか。数字の並んだ資料を読み込み、分析を行うことでしょうか。それとも、金融機関と日々コミュニケーションを取る姿でしょうか。

これらは重要な業務ではありますが、これがすべて、というわけでは決してありません。金融は、企業の経済活動や私たち一人ひとりの生活と、密接に結び付いています。こうした金融を取り巻く環境の変化とともに、金融機関の役割は絶えず変化しており、その中で金融庁の業務も、形を変え続けていると感じます。

私はいま、「人材」に関する業務をしています。「金融なのに人材？」と思うかもしれませんが、例えば、地域金融機関の中では、「カネ」だけでなく「ヒト」の面からも取引先をサポートするため、人材紹介サービスを提供する金融機関が増えてきています。そして私は、このような流れを後押しし、「人材」という切り口で、地域を支える企業への支援が一層進むよう環境整備に取り組んでいます。金融機関への働きかけだけでなく、多様なステークホルダーと連携し、また予算も活用しながら、政策の実現に向けて試行錯誤を重ねています。

金融に軸足をおきながら、金融以外の分野に対しても好奇心を持って向き合い、答えのない課題に対応する。それが金融庁の仕事の面白さだと感じています。少しでも興味を持ってくださった方、ぜひ金融庁に足を運んでみてください。

CAREER STEP

2018.4	総務企画局市場課
2019.7	監督局銀行第一課国際業務係
2020.7	監督局銀行第一課企画係長

2018年入庁

乗松 慶行
NORMATSU Yoshiyuki



（業態横断チーム） モニタリング部門

専門性を活かしたモニタリング。

金融システムが抱えるリスクは様々です。それらのリスクを深く、的確に分析するためには、一つの業態のみを分析するだけではなく、横断的な視点も必要です。

金融庁では、金融機関の経営に関するデータや入手した情報を十分に分析することに加え、弁護士や会計士を含めた業態横断的な専門チームをカテゴリー別に編成し、多角的な観点からモニタリングを実施しています。

例えば、近年、銀行などの既存の金融機関が、新たに参入した資金移動業者などと連携して新たなサービスを提供する動きが広がっています。その際のリスクを正確に把握しつつ、利用者保護が十分図られるようにしていくためには、業態別のモニタリングだけではなく、サイバーセキュリティやマネー・ローンダリングといった観点から業態横断的なモニタリングを実施し、総合的な対応を行うことが重要になります。

金融庁は、多くの諸外国と異なり、銀行業・保険業・証券業のみならず、資金移動業や暗号資産交換業なども含め、包括的に金融業界を所管する「一元監督当局」です。その特徴、強みを活かし、今日も金融システムに向き合っています。

AIU 1,822 (-35)	HJI 20,369 (+580)	WWE 890 (-20)	PLD 6,350 (-200)	EER 10,985 (+580)	QRT 665 (-15)
MBC 3,605 (+210)	LJH 9,542 (-128)	MJB 2,609 (+35)	PON 7,654 (+169)	NFR 6,522 (+122)	UGH 1,632 (-54)
YBV 3,204 (-33)	QMN 5,211 (+156)	MMJ 7,100 (-60)	IIT 7,150 (-150)	KLM 782 (+74)	CCX 1,901 (+101)
MBB 3,320 (-120)	WFF 712 (+12)	HJM 134 (+5)	QLC 2,022 (-18)	LSD 631 (+40)	SDH 6,287 (-57)

2005年入庁

和久田 勝也
WAKUDA Katsuya



INTERVIEW 09

総合政策局総合政策課
サイバーセキュリティ対策企画調整室
サイバーセキュリティ対策係長

「サイバー攻撃」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが、金融業界もその標的となっています。例えば、金融機関が提供するインターネットバンキングやキャッシュレスサービス等を停止させたり、こうしたサービスの利用者になりすまし金銭を窃取する等の事案も発生しています。

このため、私たちのチームでは、こうしたサイバー攻撃に対して、金融システム全体の安定を確保し、国民生活・経済活動を守るために、金融業界のサイバーセキュリティ強化に取り組んでいます。

チーム内で私は、金融機関のサイバーセキュリティ対策を分析し、問題の把握と改善に向けたモニタリングを担当しています。金融機関と直接対話し、問題が改善したときの達成感はひとしおです。また、チームに在籍する専門家と一緒に働き、専門性を磨くことができることも、この業務の魅力です。

これまで情報システム分野を学んできた方、そうでない方も研修を通じて基礎から学ぶことができます。新たな技術が出現する中で、サイバー攻撃の手法も変化しており、こうした動向を追い続け、金融業界のサイバーセキュリティ強化に意欲がある方は一緒に働いてみませんか。

CAREER STEP

2005.4 監督局総務課監督調査室	2015.7 検査局総務課システムモニタリングチーム
2007.7 監督局総務課協同組織金融室	2016.7 NRI セキュアテクノロジーズ（出向）
2009.7 証券取引等監視委員会事務局総務課	2018.7 総合政策局総合政策課
2012.7 証券取引等監視委員会事務局取引調査課	サイバーセキュリティ対策企画調整室
2013.7 総務企画局総務課情報化統括室	サイバーセキュリティ対策係長

INTERVIEW 10

総合政策局リスク分析総括課
（顧客本位の業務運営チーム）

日本の家計金融資産は1,900兆円を超えていますが、そのうち1,000兆円以上が現預金です。米英と比べると、株式や投資信託等の割合が低く、金融資産全体の伸びも低い水準にとどまっています。日本の家計は、全体として見れば、金融資産を有効に運用・活用できていない状況にあります。

金融庁では、家計の安定的な資産形成を図るためには、金融商品の販売等に携わるすべての金融機関が顧客本位の業務運営に努め、顧客にふさわしい金融サービスを提供することが極めて重要であると考えています。

当チームでは、金融機関が顧客にふさわしい金融サービスを提供するためには、どのような行動を取るべきかを考え、金融機関の経営陣や営業活動に携わる方々との対話を通じて、サービス水準の底上げを図っています。

顧客本位の業務運営は、法令で課せられた義務ではありません。解決方法が一樣ではない課題に取り組むことは容易ではありませんが、経験豊富な上司に支えられながら、解決を目指すことは、大変やりがいのある業務です。

人生100年時代を迎える中、貯蓄から資産形成を進め、国民の充実した人生や豊かな老後を支援できるような仕事にチャレンジしてみませんか。

CAREER STEP

2016.4 総合政策局企画課
2017.7 総合政策局総務課国際室
2018.7 総合政策局リスク分析総括課地域銀行分析室
2019.7 総合政策局リスク分析総括課（顧客本位の業務運営チーム）

2016年入庁

橋本 夏実
HASHIMOTO Natsumi



証券取引等 監視委員会

市場の番人として。

証券取引等監視委員会は、市場の公正性・透明性の確保、投資者保護の実現を使命として、調査・検査を通じた「網羅的（広く）」・「機動的（早く）」・「深度ある（深く）」市場監視を行うことで、誰からも信頼され魅力ある資本市場の構築を目指しています。

公認会計士・ 監査審査会

適正な企業財務情報の開示へ。

公認会計士監査は、公認会計士が企業の財務諸表を検証し、企業情報の信頼性を確保することによって、公正な企業活動、及び投資者保護などを担保することを目的としています。

2011年入庁

橋本 佳菜
HASHIMOTO kana

INTERVIEW 11

証券取引等監視委員会事務局
総務課企画調整第二係長

私は現在、部局内の組織活性化や人材育成に関する業務を担当しています。若手職員向けの勉強会や、OJT形式の短期研修などを開催しており、若手職員の成長意欲を応援できるこの業務にとってもやりがいを感じています。特にOJT形式の短期研修は、実際に証券会社等への立入検査やインサイダー取引等の不正取引の調査といった現場経験を積めるもので、研修参加者だけでなく受入課室からも好評をいただいております、それが業務に対するモチベーションにもなっています。

また、証券取引等監視委員会には様々なバックグラウンドを持つ専門家が多数在籍しているほか、まわりにいる先輩職員はどんな疑問にも熱心に答えてくれる方ばかりです。研修などの制度面も、職場の雰囲気も、皆さんの成長意欲を応援する環境が整っており、意欲次第でどんどん知識や理解を深めることができます。

成長意欲溢れる皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

CAREER STEP

2011.4 監督局銀行第二課	2018.7 証券取引等監視委員会事務局市場分析審査課情報処理第三係長
2013.7 総務企画局総務課	2018.11 育児休業
2015.7 東日本大震災事業者再生支援機構（出向）	2020.5 証券取引等監視委員会事務局総務課企画調整第二係長
2016.7 総務企画局総務課	
2017.7 総務企画局総務課管理室審査係長	

INTERVIEW 12

公認会計士・監査審査会事務局
審査検査課課長補佐

確固たる監査制度は、公正で透明な資本市場の根幹を成しているといっても過言ではありません。監査の質の向上のため、公認会計士・監査審査会は、監査事務所に対する審査・検査、公認会計士試験の実施、諸外国の関係機関との連携・協力などの業務に取り組んでいます。

業務の詳細はウェブサイト譲るとして、審査会業務の魅力を端的に申しますと、監査の質の向上に絶対的な正解はないことだと思います。「日々発展する企業活動を映し出す財務情報の信頼性を的確に担保する監査制度とは何か」という問いは、ある意味、我々審査会にとつての公案だと思っています。

公認会計士・監査審査会は、バックグラウンドが多様な職員で構成されており、業務也多岐にわたります。各々が多様なアプローチで、自問自答しながら日々業務に取り組んでおります。

答えのない課題には、自由で柔軟な発想が欠かせません。皆さんの新しい感覚が、監査の質の向上という使命を果たす上で、大きな推進力となることを信じてやみません。

CAREER STEP

2004.4 証券取引等監視委員会事務局特別調査課	2013.7 総務企画局総務課国際室経済連携係長
2008.7 総務企画局政策課	2015.7 総務企画局総務課国際室国際決済係長
2009.7 総務企画局金融サービス利用者相談室相談係長	2016.7 監督局証券課外資証券会社係長
2011.7 英・パーミンガム大学（留学）	2017.7 経済協力開発機構（OECD）（出向）
2012.7 総務企画局総務課国際室資金洗浄対策係長	2020.7 公認会計士・監査審査会事務局審査検査室室長補佐

2004年入庁

山田 有也
YAMADA Yuya

CAREER PATH [contents]

- p.20 係長×係員 対談
- p.22 課長補佐
- p.24 室長
- p.26 出向について
- p.28 国内・海外留学について
- p.30 ワークライフバランス
- p.32 研修制度

キャリアパス ——— 金融庁職員のキャリアを知る



係長×係員 対談
国際室職員のとある一日
森谷 慎太郎
総合政策局総務課国際室国際企画第一係

p.20

ワークライフバランス - 若手職員の声 p.30



坂本 敦美



渡邊 駿平

新入職員に聞いてみました Q&A p.32



係長×係員 対談 p.20



丸山 恭
総合政策局総務課国際室
国際企画第一係長

p.23

インタビュー



犬塚 誠也
企画市場局市場課市場企画調整官
(総括)

p.22

インタビュー



川合 弘晃
総合政策局リスク分析総括課課長補佐
(データ分析統括室)

p.24

インタビュー



野崎 彰
総合政策局秘書課組織戦略監理官
兼 企画市場局総務課フィンテック室長
兼 総合政策局総合政策課研究開発室長

入庁

係員

係長

課長
補佐幹部
職員

出向について

p.26



峯川 祐衣
2018 年入庁
日本政策投資銀行
(DBJ)
地域投資部



長谷川 浩一
2017 年入庁
中国財務局
金融監督第一課



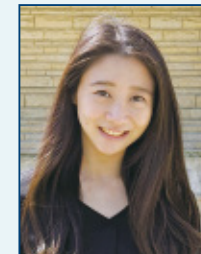
岸本 浩介
2010 年入庁
証券監督者国際機構
(IOSCO)

国内・海外留学について

p.28



川井 大輔
2018 年入庁
カーネギーメロン大学
工学研究科 博士課程



楠 結衣
2017 年入庁
HEC 経営大学院
経営学 (MBA) 専攻



志波 大輝
2016 年入庁
東京工業大学
技術経営 (MOT) 専攻

ワークライフバランス - 育児との両立

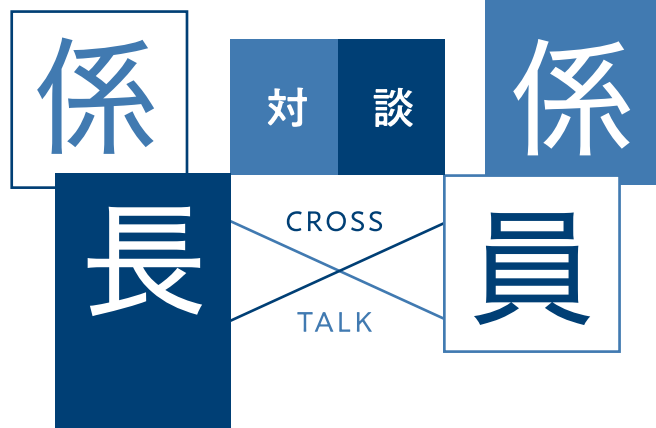
p.31



久野 貴広
2012 年入庁
総合政策局総合政策課
企画係長



岡 身衣子
2007 年入庁
総合政策局総務課
地方調整係長



ー お二人の現在の仕事を教えてください。

丸山係長 G20やG7といった国際会議の対応及び、金融安定理事会 (FSB) やIMF、OECDといった国際機関との連携・調整を行っています。2008年の金融危機以降、世界各国が金融システムの安定を大きな目標の一つとして掲げ、そのあり方や規制について議論しています。そうした中、我々は日本としての立場を主張しつつ、グローバルな金融システム自体がより安定したものになるよう、チーム一丸となって議論に参加しています。国際会議は日本時間の夜に行われることが多く、大変なこともあります。そうした場で日本として有益な主張ができるよう、時には国内部門や金融機関にヒアリングして国内の情報を収集・分析するなど、サポートを行っています。

森谷係員 私は主にG7/20やFSBの担当係員として、主にこれらの会議に関する調整業務を行っています。昨年4月に入庁してからテレワークの日々も多く、大変でしたが、オンラインでも丁寧に指導いただき、徐々に業務に慣れることができました。年末以降は仕事の幅が広がり、会議の調整だけでなく、会議資料のたたき台作成などを任せてもらえる機会も多いです。丸山さんからフィードバックを受けながら、改善を繰り返すことで、担当する資料も係内の資料から幹部の講演資料まで、あらゆるレベルの仕事を経験することができています。

ー この1年間で最も印象に残っている仕事は何ですか？

森谷係員 事務年度を通して何度も体験したG20の一連のプロセスは大変興味深かったです。G20はサミットを頂点として、財務大臣・中央銀行総裁級やさらにその下のクラスでも会合が開かれる、重層的な構造になっています。例えばCOVID-19への対応一つとっても、経済状況や感染拡大状況によって各国の意見は異なります。そうした立場の違いを踏まえながら、それぞれのレベルでいかに議論をまとめていくか、合

意させるか。これは役所だからこそ経験できたことだと思います。また、財相・中銀会合で発出される声明は、文言合意に辿り着くまで、各国の役人が時には夜通しで議論することもあります。そうした光景を目の当たりにして、政府が発出している声明一つ一つに地道な過程が積み重ねられていることを実感し、とても勉強になりました。

丸山係長 森谷君の言う通り、G20やG7といった各国のハイレベルでの議論に携わることができたのは貴重な経験でした。ただ、実は、こうした各国のハイレベルの議論の土台にはFSBやパーゼル銀行監督委員会 (BCBS) といった国際的な会議体でのテクニカルな分析・議論があり、私にはこちらにも興味深いものでした。国内外の金融規制や経済学の知見を活用して、日本の金融外交の一端を担うことで、改めて金融庁の役割を実感することができました。こうした議論への貢献を通じて、日本と世界という二つの視点で全体最適な政策・規制の立案に頭を悩ますことができるのは、役所の醍醐味といえるのではないのでしょうか。

ー 金融庁での働き方・職場の雰囲気について、どのように感じていますか？

森谷係員 国際室は全体的にテレワークが進んでいるため、非常に働きやすいと感じています。また、小さな悩みでも役職にかかわらず、Skypeでのチャット等を通じて気軽に相談できる関係性が構築されていて、円滑に業務ができています。一方で、国際室の業務の性質上、国際会議対応は免れられないため、夜遅くなることもしばしばあります。そうした中でも、係で業務や役割の分担を明確にすることで、少しでも係全体の負担軽減に向けて協力する雰囲気は非常に強いと思います。

丸山係長 いきなりボキャブラリーが乏しくなるのですが、金融庁は「ちょうど良い」職場だと思います。金融という多少は理知的な性質を持つものを相手にしているからか、職員は業務に対して冷静かつ



論理的に取り組む人が多い印象です。けれども決して堅苦しかったり、暗いということはなく、楽しく雑談できる雰囲気があり、とても居心地が良いです (コロナ禍じゃなければ飲み会も)。そんな雰囲気の中、森谷は先日、私のことを「友達みたい」と言っていたらしく、確かに陰で「まるちゃん」と言っているのを目撃したことがあります。学生の皆さんはもし入庁してもここだけは見習わないでほしいです。

ー 最後に、学生へのメッセージをお願いします。

森谷係員 金融庁に入庁して早々テレワークとなり、係とのコミュニケーションや仕事の吸収に苦労した思い出もはや懐かしいですが、全体的に非常に充実した一年でした。社会人としての作法はもちろん、国際室で国際会議や国際合意がどのように行われるのかをロジ (調整) 面及びサブスタンス (内容) 面の双方から勉強できたことは大きな経験です。日本を取り巻く国際的な環境が目まぐるしく変化する中、他国を巻き込んで自国のスタンスを主張する重要性は昔前より遥かに増していると思います。業務ではスピードと正確性の両方が求められ、大変なこともあります。日々充実感を持って過ごせています。変化の速い金融の重要課題に自ら取り組んでみたい方は、ぜひ金融庁の門戸を叩いてみてほしいと思います。

丸山係長 先日実家に帰り、ふと小学校の卒業アルバムを開くと、将来の夢の欄に汚い字で「人の役に立つこと」と書いてありました。今見るとこっぴどくしく、また、私の今までの仕事は胸を張れるようなものばかりでもありませんが、金融という大規模かつ技術進歩と隣り合わせの仕組みは、そのポテンシャルを湛えているものだと思います。もちろん金融システムに向き合う金融庁の業務も広範で、就職後も能力の幅が狭まることはありません。例えば、私はいま国際室に所属していますが、検査部門にいたこともありますし、今後は法改正に携わることになるかもしれません。勉強の毎日ではありますが、そんな無数の可能性を持つ職場で、皆さんも働いてみませんか？

国際室職員のとある一日

9:30	出勤 (テレワークを開始) コーヒーを淹れて、朝ごはんのミックスナッツを食べながらメールやニュースのチェック。特に海外からのメールは夜のうちに来ているので、一気に目を通して重要なものがないか確認する。
10:00	調査・資料作成 次の国際会議で議題となるCOVID-19への金融機関の対応について、分担しながら各国の状況を調査。それぞれの国の経済状況や感染拡大状況、あるいはCOVID-19以前の従来の制度によって、現在取られている政策に差異があることを把握。
12:00	昼食 昨日の残り物と簡単なパスタで昼食。仕事前に干していた洗濯物を取り込んだり、近くのスーパーへ晩御飯用の食材の買い出しに行くこともある。
14:00	オンラインミーティング 午前中に調査した結果を持ち寄って、係でミーティング。それぞれのバックグラウンドを活かしながら、日本として取るべきスタンスを議論。オンラインなので、時には上司のお子さんがひよっこり顔を出すときも。
16:00	国際会議の準備 午前中に調査した各国のCOVID-19への対応状況をもとに、幹部と、次回の国際会議での日本の発言案を相談。国内部門の動きも踏まえて、日本としてどこまでの発言ができるのか、ギリギリのラインを探っていく。
19:00	夕食 一度仕事を中断して、夕食の準備。お風呂掃除やアイロンかけなど、意外にやることは多い……。
20:00 21:00	国際会議 国際会議はヨーロッパ時間 (CET) で行われることが多いので、日本からは夜中の参加。議長も日本に向けてgood eveningと言ってくれる。今までの準備の成果を出すべく、他国のスタンスを慎重に聞き取りながら、発言案を微調整して日本の主張を的確に伝えていく。

総合政策局リスク分析総括課 課長補佐（データ分析統括室）



ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

私が所属するデータ分析統括室は、金融庁のデータ戦略・分析力の向上を目指し、令和2年度に新設されました。金融機関から提出されるデータは、金融システム全体の状況や金融機関の経営状況を把握し、質の高いモニタリングを行うために必要不可欠なものです。一方で、年々データの量が増え、またその質も高くなっており、金融機関の負担に配慮した、より効率的・効果的なデータ収集の仕組みが求められています。そのため、金融業界と協議を重ね、海外の取組みも参考にしながら、改善に取り組んでいます。また、企業別のデータを購入し、コロナ前後の企業の財務状況や資金調達等の変化の分析を行い、金融面から企業の支援を促すといった新たな取組みも進めています。

ー これまでで最も印象に残っている仕事は何ですか？

入庁以来、モニタリング部門、企画部門、官房部門と様々な部署で経験を積んできましたが、振り返ってみるとどの部署でも1つや2つ印象に残っている仕事があります。中でも印象深い仕事としては、平成24年から翌年にかけて行われたインサイダー取引規制の改正です。社会的にも注目された事件を背景に、金融審議会のワーキング・グループでの議論、それを踏まえた法案作成、国会での審議を経て法案成立に至るという一連のプロセスに携わることができました。その裏では連日連夜のハードワークがありましたが、霞が関で働くことの意義を改めて実感する良い機会となりました。

ー 学生へのメッセージをお願いします。

私が官庁訪問をしていた頃は、銀行の不良債権処理を巡り、金融庁に関連するニュースが紙面を賑わすことも多く、自然と興味が湧き、足を運ぶようになりました。外から見ていると大変そうだなと思いつつも、実際に働く職員と会って感じた温かさや懐の深さのようなものとのギャップに惹かれたことをよく覚えています。当時、金融庁は若い組織で風通しが良いという声をよく耳にしましたが、かれこれ十数年経った今でも通用するフレーズではないでしょうか。役職や年次にとらわれず、自由に意見を出し合いながら議論したり、良いアイデアがあれば積極的にチャレンジさせる雰囲気は今も昔も変わりません。皆さんもぜひ金融庁に触れて、その魅力を感じてもらいたいと思います。

企画市場局市場課 市場企画調整官（総括）



ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

コロナ後の新たな経済・社会を見据えつつ、日本の金融資本市場の活性化や国際競争力の向上に向けた取り組みを行っています。具体的には、昨年に金融審議会市場制度ワーキング・グループを設置し、日本の魅力ある国際金融センター実現に向けた制度のあり方や、ベンチャー企業等に対する成長資金の円滑な供給などについて検討しています。また、SDGsやESG投資が近年注目される中、サステナブルファイナンスの一環として、ソーシャルボンド（社債）発行にあたって参照できるガイドラインの策定にも取り組んでいます。こうした政策を企画・立案する上で、証券会社や投資家をはじめとした、市場関係者との意見交換等を通じた実態・要望の調査も行っています。様々な情報源をきっかけに、制度上の課題・ボトルネックを具体的に把握し、議論を行うことで、より良い市場制度の実現を目指しています。

ー これまでで最も印象に残っている仕事は何ですか？

これまでに、法令や監督・検査、他省庁出向から海外勤務まで、多種多様な仕事に携わりましたが、どの仕事も優劣付けられないほど思い出深いものです。その中でも比較的印象に残っている仕事は「暗号資産交換業者の監督」で、在任中に業者から暗号資産が流出する事案が起きました。監督当局として、まずは顧客の資産を保護することが最優先です。そのため、業者に対して顧客への説明・補償方針や原因究明・再発防止策などの報告を直ちに求め、立入検査で業務運営体制の不備等をチェックし、業務改善命令で体制面の是正や定期的な事後報告を求めるなど、これまでにないスピード感で矢継ぎ早に行政対応を進めました。非常に多忙で悩む場面も多々ありましたが、上司を含め、皆が同じ方向を向いて全力を尽くすというチームの一体感を特に感じられた経験となりました。

ー 学生へのメッセージをお願いします。

「金融庁ってドラマのイメージだね」。あながち間違っているとは言えませんが、正解でもありません。イノベーションの進展に伴い金融のあり方が変化する中において、金融行政も大きく変わりつつあります。最先端の技術・情報に触れながら、これまでのマニュアルに頼らず新しい視点で試行錯誤していくのは困難ではありますが、その分やりがい強く感じられる仕事だと断言できます。Z世代ならではの新鮮な感性、そして何よりも新しいことにチャレンジする好奇心を持った学生の皆様、金融庁で刺激的な日々を送ってみませんか。

2004年入庁

川合 弘晃
KAWAI Hiroaki

CAREER STEP

2004.4 監督局銀行第一課
2006.7 監督局総務課
2007.7 検査局審査課
2010.7 総務企画局管理室管理係長
2012.7 総務企画局市場課有価証券係長
2013.7 総務企画局企画課総括係長
2014.7 総務企画局政策課法務室
審査第三係長
2015.7 監督局銀行第一課銀行第三係長
2016.7 監督局銀行第一課銀行第五係長
2018.7 総合政策局総務課総括第二係長
2019.7 総合政策局総務課課長補佐
2020.7 総合政策局リスク分析総括課
課長補佐（データ分析統括室）

2005年入庁

犬塚 誠也
INUZUKA Masaya

CAREER STEP

2005.4 検査局総務課
2007.7 監督局総務課郵便貯金・
保険監督参事室総括係長
2008.7 財務省主計局調査課調査主任
2010.7 監督局総務課企画調整係長
2011.7 関東財務局理財部
金融監督第一課上席調査官
2012.6 エジプト大使館二等書記官
2014.6 在英大使館二等書記官
2016.7 監督局銀行第一課
課長補佐（企画）
2017.7 監督局総務課金融会社室
課長補佐（総括）
2019.7 総合政策局リスク分析総括課
リスク分析総括調整官（総括）
2020.7 企画市場局市場課
市場企画調整官（総括）

総合政策局秘書課組織戦略監理官
兼企画市場局総務課フィントック室長
兼総合政策局総合政策課研究開発室長



2000年入庁

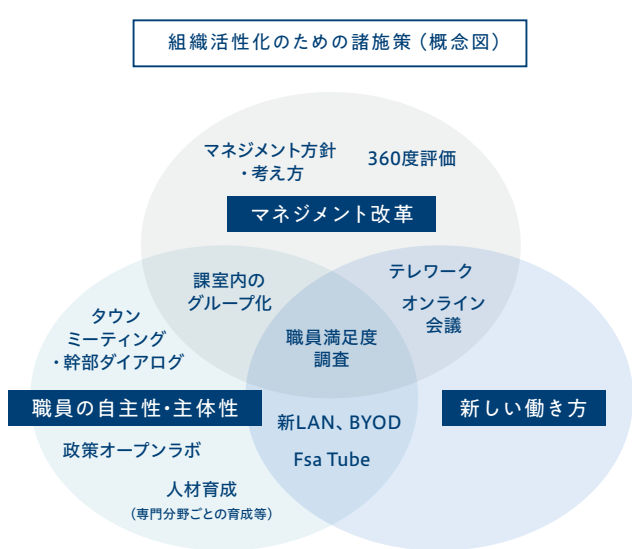
野崎 彰
NOZAKI Akira

ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

すべての人々の生活やビジネスを支えている金融の世界には、様々な英知が結集し、最先端のアイデア、技術、サービスが次々と生まれています。その一方で人々の安心を脅かす不正やリスクも姿形を変えて現れます。将来にわたってこうした未知の課題に向き合い、国民の期待に応えていくためには、金融庁はどのような組織であるべきなのか。

私が立ち上げ間もない金融庁に入った20年前から今日に至るまで、こうした問題意識を持ち続けて、金融庁は常にバージョンアップをし続けています。

組織戦略監理官室では、多様なバックグラウンドを持つ職員一人ひとりが自らの強みを存分に発揮して仕事ができるような環境づくりのサポートをしています（以下ご参照）。



金融庁では、原則すべての職員がテレワークをできる環境がいち早く整備されました。職員同士のコミュニケーションのスタイルも、Skypeや掲示板（いいね！ボタン付き）も織り交ぜた多様化が進んでいます。直近では、情報交換やスキルアップの場として、職員向けの動画共有サイトFsa Tubeを開設したり、数年先を見据えて「データサイエンス」分野の人材育成プランを練ったりと、更なるバージョンアップに向けた取組みを進めています。

現在、私は、組織戦略監理官室のほか、フィントック、研究開発、マイナンバー施策の責任者を兼務しています。フィントック室ではベンチャー企業の集積拠点がオフィス。研究開発室では全国各地の有識者を招聘して勉強会を開催したり、学者の先生方と共同研究について議論。マイナンバー施策では法案を担当しており、内閣官房などの関係省庁と緊密に連携。こうした色々なスタイルの業務を同時に進められるのも、「新しい働き方」が定着してきたおかげだと感じています。

ー これまでで印象に残ったポストについて、業務内容とやりがいを教えてください。

これまで数々のポストを経験させてもらいましたが、すべてが貴重な財産になっています。入庁直後は、バブル崩壊後の金融危機対応で金融機関の破綻処理や公的資金注入の仕事、その後、海外勤務を経て、銀行や貸金業者の検査・監督（モニタリング）、監査法人の監督・監査基準の改訂のほか、いくつかの法案づくりを担当しました。ここでは、海外勤務と法案づくりの話をご紹介しますと思います。

海外勤務

入庁3年目から1年間、米国の銀行監督当局に出向し、米国全土の拠点を回りながら金融機関のモニタリング手法やガバナンス管理のあり方などを学びつつ、クリスマス前1か月間は、ニューヨークで銀行の立入検査チームの一員として参画しました。その時のメンバーとは今でもやり取りが続いており、国を越えて生涯の仲間ができました。

12年目から4年間、パリにある経済協力開発機構（OECD）の職員として、国際基準である「コーポレート・ガバナンス原則」の改訂や、各国の取組みのレビュー作業を担当しました。欧州各国のみならず、インド、スリランカ、シンガポール、モンゴル、トルコ、マレーシア、インドネシアなど様々な国を訪れて、各国の関係者に政策提言などを行いました。また、50を超える国々のコーポレート・ガバナンスの状況を集約したファクトブック作りにも励みました。地道で骨の折れる作業でしたが、各国当局のサポートのお蔭で無事に出版に漕ぎつけることができました。その後も同僚たちが改訂を続けてくれており、2019年版は福岡G20にも提出されました。一緒に働いた上司・同僚たち（出身国：スウェーデン、ドイツ、トルコ、デンマーク、チリ、フランス、韓国、英国、米国など）の多くとは家族ぐるみの付き合いもあり、パリに出張に行くときと温かく迎えてくれます。

法案づくり

入庁5年目から1年間、内閣官房郵政民営化準備室に出向して、初めて法案作成を担当しました。官民から集った100名超の職員で法案を作成しました。当時の小泉首相からの差し入れを励みに頑張りましたが、廃案となるという歴史的瞬間を目の当たりにしました（その後の特別国会で郵政民営化関連法案は無事成立しました）。

9年目の課長補佐時代には、チームを率いる立場で法案づくりに携わりました。サブプライムローン問題を契機とした金融危機対応として、信用格付会社に規制を導入する法改正です。信用格付会社は、国境を越えて様々な企業や金融商品にトリプルAなどの格付を付与し、投資判断に大きな影響を及ぼすことから、規制の枠組みも国際的整合性が求められます。マドリードに本部のある国際機関が定める行動規範や米国・欧州の規制などに目を配りながら、規制案の作成を行いました。その過程でマドリード、ブリュッセル、パリに出張したのも良い思い出です。

16年目の総括補佐時代には、株式市場の安定性確保のため、アルゴリズム高速取引を行う投資家に規制を導入する法改正を担当しました。取引所のほか、香港やシンガポールにいる業者とも対話して、実際にどのような手法でアルゴリズム高速取引を行っているのかを勉強しながら、規制の枠組みを検討しました。欧州における規制の状況を調査するため、フランス・ドイツ・オランダを1週間で回る弾丸出張に行き、途中でIMFからドイツに出張中の同期と久しぶりに再会し、時差で意識朦朧とする中、食事したのも忘れ難い思い出です。

MESSAGE

学生へのメッセージ

立ち上げ間もない金融庁に入って20年が経ちました。入庁当時から、不良債権問題への対応、金融機関の破綻処理と課題山積でしたが、幹部職員、民間の専門家から入庁1年目の職員まで、それぞれの知恵とキャパシティを出し合って、チーム一丸となって問題解決に取り組んできました。しがらみのないフラットなこのカルチャーは、組織が大きくなった今でも受け継がれている金融庁の貴重な財産です。

我々が向き合う金融の世界は、日々進化しており、最近では、ビッグデータやAIなどのデータサイエンス、暗号技術や量子技術などもスコープに入れて、最先端の知見の習得にも努めています。法律の世界でも、金融商品取引法上の公開買付規制などに違反して取得した株式の会社法上の議決権停止や、会社の将来性そのものを担保にできるようにするための法制など、民商法上の新たな視点を次々と打ち出しています。

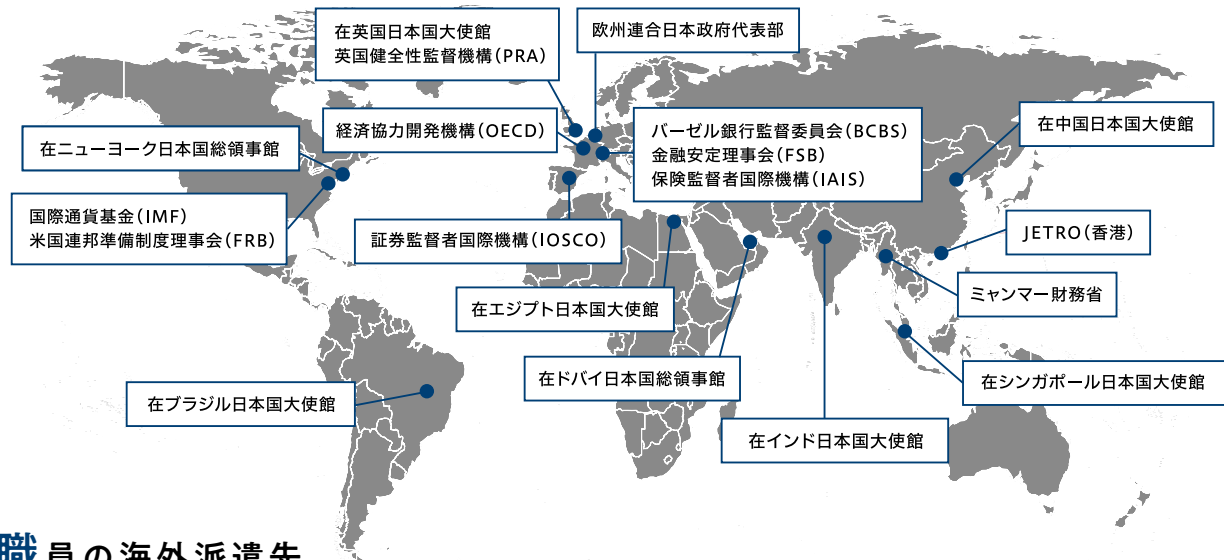
多彩な人材が集い、知的好奇心が尽きることのない金融行政の世界を、ぜひ皆さんと一緒に、支えていくことができると考えています。

CAREER STEP

2000.4 監督部監督総括課協同組織金融室
2001.1 監督局総務課金融危機対応室
2002.7 米・通貨監督庁（OCC）（出向）
2003.7 検査局総務課金融証券検査官 兼 調査企画係長
2004.1 検査局総務課調査企画係長
2004.7 内閣官房郵政民営化準備室郵便貯金グループ主査
2005.8 関東財務局理財部金融証券検査官
2006.7 関東財務局理財部金融監督第5課上席調査官

2007.7 総務企画局企業開示課課長補佐
2008.2 総理大臣補佐官付
2008.9 総務企画局企業開示課課長補佐
2011.7 経済協力開発機構（OECD）（出向）
2015.7 総務企画局市場課課長補佐（総括）
2017.7 総務企画局政策課総括企画官
2018.7 企画市場局企業開示課開示業務室長
2020.7 総合政策局秘書課組織戦略監理官 兼 企画市場局総務課フィントック室長 兼 総合政策局総合政策課研究開発室長

出向について



職員の海外派遣先

金融庁では、グローバルに広がる金融システムの諸課題に対応するため、世界各地の国際機関や在外公館、各国の金融規制当局などに職員を派遣しています。

こうして世界中に派遣された職員から、金融に関する国際的な議論の状況や、各国の金融・経済情勢に関するフィードバックを受け、国際交渉や国内の金融制度の企画立案に役立てています。

証券監督者国際機構 (IOSCO)

2010年入庁

岸本 浩介
KISHIMOTO Kosuke

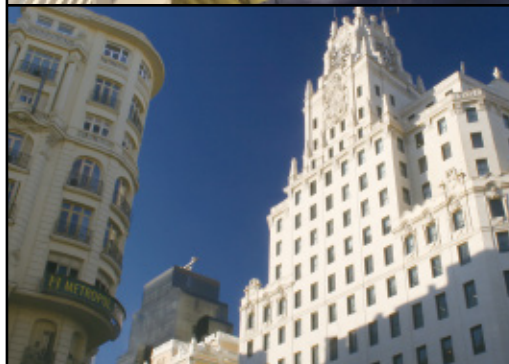
ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

コロナウィルスの流行により、世界の金融監督当局は働き方を変えました。自宅勤務が標準となり、おかげで効率的に仕事ができるし、楽な格好で自由に飲み食いしながら仕事ができる（おかげでさらに太りました）反面、これまで対面で行っていた「コソコソ話による機微な情報の交換」が難しくなってきました。そのような中、改めて脚光を浴びているのがデータの重要性。お金の流れは経済活動そのもの。ゆえに、金融監督当局が持つ情報は、様々な経済事象を認識するための重要なツール。情報交換に制約がある今だからこそ、これを最大限活用しようという動きです。

国際機関のデータ分析部署に勤める私の仕事は、データ収集・管理・分析。今や、簡単なコーディングで世界中から莫大な情報を得られるようになりましたし、様々な分析手法を簡単に試せるようになりました。他方、秘匿性が高い情報を各国金融監督当局から集める場合には、それをどう管理するか（例えばセキュリティをどうするか、アクセス権を誰に付与するか）も併せて考える必要があります。

ー 出向して感じた金融庁の魅力を教えてください。

そこで感じるのは、金融庁の存在感の大きさ。銀行・証券・保険を含むすべての金融機能を守備範囲とする当局は世界で数えるほどしかなく、様々なプレイヤーが相互に関連している現代金融システム全体から情報を集め、分析した上で、意思決定し、かつ、意見発信できるのは、金融庁のこの上ない強みです。そのような世界で、データサイエンスのみならず、経済学、法学といった自分の知識を総動員かつ複合させて行うデータ分析、かなり面白いと思います。「データ」に漠然と興味のある皆さん、金融庁なんていかがです？



日本政策投資銀行 (DBJ) 地域投資部

2018年入庁

峯川 祐衣
MINEKAWA Yui

ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

私は現在、日本政策投資銀行の地域投資部という部署で、ファンドの運営・管理及び投融資業務に携わっています。具体的には、主に地方銀行等と協働してファンドを組成し、地域のオーナー企業に対し、メザニン（資本性劣後ローンや優先株式等、融資と投資の中間的な金融手法）等のリスクマネー供給を行っています。ここ最近では、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、業況が厳しくなった企業の下支えになれるよう、投資先と密にコミュニケーションを取りながら業務を行っています。協働先としてDBJの投資知見に期待する声は非常に多く、日々やりがいと緊張感を感じながら業務に尽力しています。

ー 出向して感じた金融庁の魅力を教えてください。

まず思い浮かぶのが、スケールの大きい仕事に携われることです。圧倒的なネットワークと情報量をもって各国の金融当局や金融機関の動きをいち早く把握し、日本としてどう考えるのか、意思決定の過程に携わることができます。金融庁内にいるとこれは当たり前のことになってしまうのですが、出向して改めて金融当局ならではの魅力だと思いました。

2つ目としては、人材の多様性かと思います。金融庁では、扱う分野が多様で迅速な判断が求められることもあるため、様々なバックグラウンドを持った方々が働いています。そのため、常に多角的な意見を耳にし、自身の知見を広げることができる魅力ある職場だと思います。



中国財務局 金融監督第一課

2017年入庁

長谷川 浩一
HASEGAWA Kouichi

ー 現在取り組んでいる仕事を教えてください。

中国財務局では、金融庁からの事務委任を受け、中国地方の地域金融機関等の検査・監督を行っています。

私が所属する金融監督第一課は、主に地域銀行の監督業務を担当しています。金融機関とは日々対話を行い、ビジネスモデルの持続可能性や、多角化する金融機関の業務等について議論を重ねています。また、地域企業の生産性向上や地域経済の発展に大きな影響を与える存在である地域金融機関の、財務の健全性やリスク管理の状況を把握することで、地域の「金融システムの安定」や「利用者保護」にも取り組んでいます。

さらに最近は、コロナ禍における事業者への資金繰り支援や、経営改善支援への取組状況の把握を通じて、地域金融機関による金融仲介機能の更なる発揮を後押ししています。

ー 出向して感じた金融庁の魅力を教えてください。

一番強く感じたのは、人材の多様性です。目まぐるしく変わる環境に対応するため、また金融業務の専門性の高さから、金融庁では様々なバックグラウンドを持った職員の方々が、同じ庁舎で働いています。

日々の業務の中で多様な職員の方々と接することで、色々な知見を吸収し、視野を広げ、能力やスキルを高めていくことができます。これは、金融庁だからこそ感じられる、大きな魅力の一つだと思います。



国内・海外留学について

金融庁では、国際化・複雑化する課題に行政として対応するため、国内・海外留学制度を通じて、国際感覚を養う機会や高度な専門知識を身につける場を提供しています。

幅と変化とスピードに富んだ金融という分野で、「行政のプロフェッショナル」として活躍できるよう、職員一人ひとりの成長を応援しています。

主に修士号を取得しますが、博士号を取得する例もあります。

海外留学

- 金融庁在外派遣制度
- 行政官長期在外研究員制度(人事院)

留学先

米英を中心とするビジネススクール、
ロースクール 等

国内留学

- 金融庁専門職大学院派遣制度
- 行政官国内研究員制度(人事院)

留学先

法科大学院
会計専門職大学院
公共政策大学院 等

カーネギーメロン大学 工学研究科博士課程

2018年入庁

川井 大輔
KAWAI Daisuke

ー 現在学んでいることを教えてください。

工学研究科博士課程で暗号資産について研究しています。暗号資産及びその派生商品は世界中の取引所で取引されていますが、中には不正な目的で行われた疑いのある取引があります。インターネット上に公開された取引記録を分析し、このような取引による被害の拡大を防ぐための技術基盤を構築するとともに、それを金融制度にどう取り入れていくべきかを日々検討しています。

ー 留学を決意した理由は何ですか。

業務に携わる中で、情報技術について理解することが今後重要になると強く感じたからです。FinTechや暗号資産の台頭により、情報技術が金融に与える影響を把握し、技術者をはじめとする新たなプレイヤーと対話することがより重要になると思います。そのような状況下で金融行政に貢献するため、腰を据え情報技術を学び、一度当局者とは異なる視点から金融制度を考えたく決意しました。

ー 今後挑戦したいことを教えてください。

私が現在所属している専攻には様々な国籍やバックグラウンドを持つ人が所属しており、彼らと議論する中で自分一人では全く思いつかなかった視点・発想に気づかされる日々を過ごしています。帰国後は、この留学経験で得た様々な視点と技術への理解をもとに、様々なステークホルダーと対話しつつ、より良い金融制度を構築できるよう貢献していきたいといます。



HEC 経営大学院 (MBA) 専攻

2017年入庁

楠 結衣
KUSUNOKI Yui

ー 現在学んでいることを教えてください。

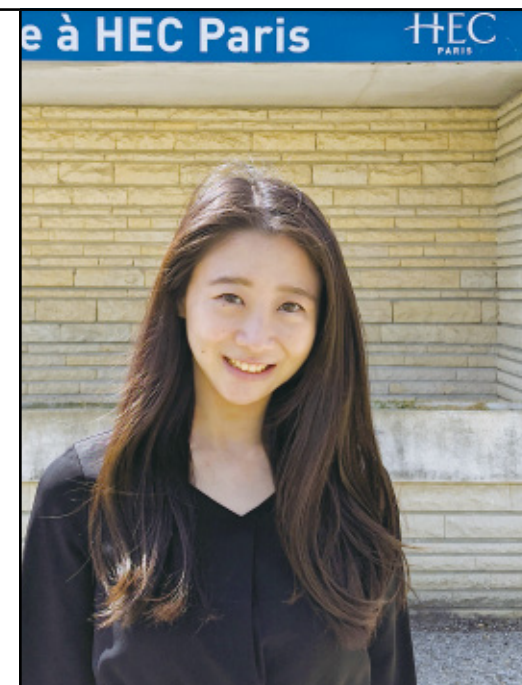
仏国パリ郊外にあるHEC経営大学院にて経営学(MBA)を専攻し、ファイナンス、会計、経済学、組織論、統計学などビジネス全般を幅広く学んでいます。世界44か国から集まった多様なバックグラウンドを持つ学生と共に学ぶことで、今まで気が付かなかった事実や新しい価値観に直面し、視野が広がっていく日々を送っています。

ー 留学を決意した理由は何ですか。

金融庁で国際・国内の金融規制策定・運用に携わる中で、金融機関を含む企業のビジネスを学ぶ必要性を感じたことや、国際的なコミュニケーション能力を向上させたいと考えたことが留学を決意したきっかけです。また、フランスを留学先に選んだ理由は、EUにおける主要国にて大陸欧州の考え方に触れ、大陸欧州から見た世界の動きを知りたいと考えたからです。

ー 今後挑戦したいことを教えてください。

留学後は、様々な国籍・バックグラウンドを持った学生と共に学んだ経験を活かし、海外当局、国内金融機関、金融サービス利用者などの様々なステークホルダーとの議論に貢献したいです。今後金融行政に携わるにあたり、この留学で培ったファイナンス理論・経済学の知識やビジネスの視点等が役立つと考えています。



東京工業大学 技術経営(MOT)専攻

2016年入庁

志波 大輝
SHIWA Daiki

ー 現在学んでいることを教えてください。

私は現在、技術経営(MOT)を専攻しています。具体的には、「技術や研究開発を社会の変革につなげるためには何が必要か」など、理工系の大学院ならではの視点で経営論を学んでいます。授業では最先端の技術に触れる機会も充実しており、また、社会人学生も多く、会社や組織を超えた議論を通じて理解を深めることができ刺激を受けています。

ー 留学を決意した理由は何ですか。

入庁以来、金融機関の検査・監督に関する業務に携わってきましたが、暗号資産などの新たなプレイヤーや革新的なサービスの出現など、金融とITの融合が急速に進展していくさまを目の当たりにしてきました。こうした経験のもと、健全なイノベーションを推進していくためには、金融当局職員として求められるITの専門性を高める必要があると考え、留学を志しました。

ー 今後挑戦したいことを教えてください。

留学後は、大学院で培った知見やノウハウを活かし、新しい金融サービスのための政策立案などに資することができればと考えています。また、これからも金融行政を取り巻く環境は急激に変化していくことが予想されるため、留学で一区切りとするのではなく、引き続き最先端の知識をキャッチアップして、金融行政に貢献していきたいです。



ワークライフバランス

金融庁の新しい働き方

金融を取り巻く環境が大きく変化する中、金融行政の質を維持・向上させていくためには、職員一人ひとりが最大限に能力を発揮して活躍できる職場であることが必要です。このため金融庁では、性別や年代、時間的制約の有無にかかわらず、あらゆる職員が充実感のある仕事と生活を両立させることができる真のワークライフバランスや女性活躍の実現を目指しています。

金融庁においては、新型コロナウイルス感染症対策として加速する働き方の変化にも対応すべく、常に働き方のアップデートを行っています。中でも、コロナと共に、あるいはコロナ後における新しい働き方の一つとして、テレワークのより一層の定着に向けて積極的に取り組んでいます。テレワークを活用した柔軟な働き方の推進は、あらゆる職員が活躍できるように必要であるとともに、いかなる事態が生じた際においても公務を継続する危機対応の観点からも重要です。

このほか、男性の育児休業取得推進なども含め、男女問わずに仕事と生活を両立しながら活躍できる環境づくりを積極的に推進しています。

EXAMPLE

事例紹介

金融庁においては、自宅でも職場と同等の業務が行えるテレワーク環境の整備を行っています。具体的には、全職員にテレワーク対応PCを配布しているほか、チャット機能、オンライン会議ツール、公用の外線通話アプリの導入を行うなど、全職員がテレワークを実施できる環境を整備しています。

この結果、金融庁では継続的なテレワークの実施が定着しつつあります。先般の緊急事態宣言時には、約7割の職員が週2～3回程度以上、約8割の職員が週1回程度以上テレワークを実施する等、急速にテレワークの活用が進んでいます。

こうした状況を踏まえ、テレワークにおける生産性・効率性の向上と、多様な働き方の推進の両立を目指し、必要な取組みを更に進めていきます。

育児と仕事の両立は、ワークライフバランスや女性活躍の実現のために重要な取組みです。男性職員の育児参加も、男性職員本人のワークライフバランスはもちろんのこと、女性活躍のためにも重要になります。

令和2年度からは、子供が生まれたすべての男性職員が1か月以上を目途に育児に伴う休暇・休業を取得できるよう取組みを進めています。金融庁では、積極的に育児を行う「イクメン」が年々増加しており、女性だけでなく男性でも気軽に育児参加できるような環境を整備しています。

MEMBER'S VOICE

若手職員の声



渡邊 駿平
WATANABE Shunpei
2019年入庁

学生の頃からの趣味であるドラム演奏を現在でも続けており、庁内の有志とバンドを結成し、休日に練習を行っています。

また、将来の海外留学へ向けて、語学学習などの時間を休日や平日の隙間時間に取っています。忙しい毎日ではありますが、仕事と趣味・自己研鑽の両立を図ろうと日々心がけています。

私は休日、大学時代の友人たちとアンサンブルの練習をしたり、演奏会を聴きに行ったりと趣味の時間を楽しんでいます！（写真はアンサンブル演奏会でピアノを弾いたときのものです）

また、庁内のオンライン英語研修を利用して英語の勉強をしたり、上司のお薦めの本を読んだりする時間も取れることは、自分自身のスキルアップにもつながっています。



坂本 敦美
SAKAMOTO Atsumi
2019年入庁

2007年入庁

岡 身衣子
OKA Miko



総合政策局総務課地方調整係長

ある日のスケジュール

7:00 登園準備	9:00 登庁	12:30 午後の業務開始	18:30 お迎え	20:15 就寝準備	
Eテレを目覚ましに娘を起こします。朝ごはんを渡しつつ、娘の機嫌を損なわないよう、そっと身支度を手伝います。	総合政策局総務課の地方調整係（財務局との連携業務等）・総務係として、日々業務にあたっています。	退庁時間を念頭に、優先順位をつけて作業を進めます。また、こまめなホウ・レン・ソクで、情報共有を心がけています。	園からの帰り道、娘は今日あった出来事をお話してくれます。	お風呂に入れた後は、娘とのお遊びタイム。単身赴任中の夫とビデオ通話することも。家事を済ませて、翌日の登園準備。	
6:30 起床 手早く通勤準備。	8:00 登園・出勤 園までの道すがら、季節ごとに変わる木々や花々、鳥を探しています。電車内では、スマホで新聞をチェック。	12:00 お昼休み フレックスを利用し、通常は30分に短縮。休憩時間を変更し、ランチに出かけることもあります。	17:45 退庁 電車内では、食材等をネットで注文。	19:00 帰宅 と同時に、食べ盛りの娘は「●が食べたい!」と冷蔵庫へ。フルーツやゆで卵を渡して時間を稼ぎつつ、作り置きや冷凍食材を活用して手早く夕食を準備。	22:00 寝かしつけ 寝かしつけながら、公用の外線通話アプリで職場メールをチェック。一緒に寝落ちしてしまうこともしばしば。

2012年入庁

久野 貴広
KUNO Takahiro



総合政策局総合政策課企画係長

ある日のスケジュール

9:30 業務開始 総合政策課企画係長として、政府の成長戦略や金融行政方針のとりまとめ等を担当しています。 本日は在宅勤務です。	12:00 昼食 昼食後は、娘と遊んでリフレッシュ。	14:00 国会担当部署から、次回の財務金融委員会で質問通告が入ったと連絡が入りました。当課で対応できるのかしっかりと見極め、課内関係者と対応を検討します。	17:00 時間休 時間休を取得。 娘のお風呂などの準備をします。	19:30 業務終了 一日を振り返って、対応に漏れがないか確認。 明日のtodoを整理したら本日の業務終了。	
8:00 朝食、身支度 身支度を終えたら、娘と触れ合う大切な時間です。	10:00 政府の成長戦略とりまとめに向けて、今後の進め方を課内関係者とSkype会議。最近では、Web会議が増えました。	13:00 午後の業務開始 次期金融行政方針の策定に向けて、施策の進捗状況などを整理。	16:00 政府の重要会議に大臣が出席することになりました。関係部署と相談しながら、会議に向けた対応方針を検討し、必要な準備を進めます。	18:00 業務再開 そろそろ娘はおねむの時間。別室でひっそりと業務再開。	20:00 夕食 夕食後は、夕食の片付けやゴミ捨て、お風呂掃除など家事をサポート。

3歳になる娘を育てながら

約2年間の育児休業を終えて職場復帰しました。育児との両立ができるか不安に思っていたのですが、復帰してみると、職場環境が様変わりしていて驚きました。

フレックス制度やテレワーク環境の整備、公用の外線通話アプリの導入、電子掲示板による全庁的な情報共有など、勤務時間に制約がある中でも効率的に働くことができていますと感じています。

また、こうした環境をフル活用できる背景には、上司や係の方をはじめ、業務で関わる多くの方々からのご理解・ご協力を得られていることが大きく、感謝しながら業務にあたっています。

育休を取得してみた

金融庁では男性職員の1か月以上の育児取得を奨励しており、育児を取得する男性職員をよく見かけます。私にも生まれたばかりの娘がおり、1か月ほど育休を取得しました。

子の出生予定を申告すると、人事担当部署の差配のもと、上司との面談が組まれるので、自然と上司に相談でき、取得しやすさを感じました。また、こうした制度や仕組みだけでなく、育休を取得しやすい雰囲気職場内で醸成されており、育児世代にとってハード・ソフト両面で働きやすい環境が整っていると感じます。

育休復帰後も、上司や同僚の温かい理解とサポートのもと、仕事と育児参加の両立に励んでいます。

研修制度

研修の枠組みについて

金融を取り巻く環境が大きく変化していく中で、金融庁の研修の枠組みも時代に対応すべく常にアップデートされています。

新人研修では、文書作成や思考法などの基礎的スキルに加え、新人職員同士が相互理解を深め、絆を育むことができるよう、ITツールを利用しながらグループワークなど互いに学び合う形式を多く取り入れています。

また、大学で金融に関連する科目を学んでいない新入職員も多くいることから、業務で必要となる専門的な知識やスキルを基礎から段階的に習得できるような研修体系になっています。

さらに、専門分野(銀行・保険・市場・証券・開示・会計・IT等)ごとに育成担当者や先輩たちが中心となって、外部専門家も招きながら、各分野の庁内勉強会を全庁的に実施しています。

その他にも、英語や中国語の語学レッスンや情報処理技術者試験の一部に対する取得支援なども提供しています。

国民の信頼や期待に応えていくためには、職員個人が金融行政のプロフェッショナルとして能力を高めていくことが不可欠です。金融庁では、職員が主体的に自身のキャリアをデザインし、学び、成長していくことを支援しています。

研修メニュー（一部抜粋）	
業務スキル	文章作成力・コミュニケーション プレゼンテーション・対話力・思考力
語学スキル	英語（リーディング・ライティング・英会話） 中国語（中国語会話）
ITスキル	情報処理技術者試験 (ITパスポート、情報セキュリティマネジメント) 取得支援
	OAスキル (Word、Excel、PowerPoint、VBAプログラミング等)
金融知識	銀行業務関連知識（リスク管理、財務分析・簿記等） 基礎レベル～応用レベル
	証券業務関連知識 (ファイナンス、開示・会計・監査、市場分析・市場監視等) 基礎レベル～応用レベル
	保険業務関連知識（保険商品、保険数理等） 基礎レベル～応用レベル
	フィンテック等関連知識 (暗号通貨、資金決済、サイバーセキュリティなど) 基礎レベル～応用レベル

自主的な政策提言

政策オープンラボの取組み

金融庁では、若手職員を中心とした人材の育成・活用、組織の活性化に取り組むとともに、職員の新たな発想やアイデアを積極的に取り入れ、新規性・独自性のある政策立案へとつなげるため、職員による自主的な政策提案の枠組み（政策オープンラボ）を設置しています。

EXAMPLE

事例紹介

01 テックフォーミング Tech Forming

我々は、若手職員の負担となっているルーティン業務・ロジ業務といった雑務を、プログラミング等のIT技術を用いて効率化・高度化しようという目的のもと、2019年に活動を開始しました。雑務に忙殺されることなく、金融庁でしかできないような内容の仕事ができる環境をつくりたいという想いで活動しています。

活動内容としては、ITリテラシー向上ワークショップを開催しつつ、個別業務課題について、Python・VBAマクロ等を用いたプログラミングを用いて、会議室鍵管理の電子化システムの開発と効率化、審議会日程調整業務の効率化等の取組みを進めています。

また昨年、国会バッジの管理簿電子化等の業務効率化に関して、河野行政改革担当大臣に入庁3年目の職員等から直接説明をさせていただき、その後投稿していただいたTweetには約7,000の「いいね!」がつかしました。

皆さんも金融庁に入庁された際には、当チームと共に業務効率化に取り組みましょう！



02 オーラルヒストリー Oral History

金融は経済の血脈などと言われますが、これまでにバブル崩壊やリーマンショックなど様々な危機に直面した際に、金融を担当する行政官は何を考え、どのような思いで執務にあたっていたのでしょうか。過去のこうした貴重な経験を風化させることなく、しっかり記録に残して、後世に伝えていく必要はないでしょうか。

私たちのラボでは、こうしたことに意義を感じた10名のメンバーが集まり、過去に金融行政を担当した諸先輩方にインタビューを行い、その内容を金融庁ホームページに公表するオーラルヒストリー(口述記録)という取組みを行っています。既に公表した3名のインタビューでは、「金融監督庁発足時に、①嘘をつかない、②隠さない、③先送りしないの3つの決意で仕事に臨んだ」、「国際交渉は『戦い』ではなく『共同作業』」、「当時の先輩方は暇になると銀行の社史を読んでいたように、歴史から学ぶことは重要」といったお話に加え、現役行政官へのメッセージも頂くなど、大変学びの多いものとなりました。

温故知新の心を大切に、今後もしっかり継続していきたいと考えています。

新入職員に聞いてみました

私たち、2020年4月に入庁しました！



金融庁に決めた理由

プレイヤーの創意工夫や技術革新によって次々と新しいアイデアが生まれるという刺激的な環境と、それに対し粘り強く政策論を展開する職員の方の責任感の強さに憧れて、金融庁で働こうと思いました。

設立から約20年の若い組織で、いい意味で公務員らしくない印象を受けました。自分と波長が合う人が多く、職員の方との距離の近さや話しやすさから職場環境も良さそうだと感じたことも大きな要因です。

1年たって成長したと思うこと

初めは指示されたことをこなすので精一杯でしたが、今ではしっかり自分で考えて行動できるようになりました。例えば、自分が今取り組んでいる仕事は何のために必要なのか、やり終えたら何が達成されるのかを事前に考え、効率的な方法を模索しながら取り組んでいます。時には、上司に「もっとこうしてはどうか」と提案することもあります。

1年目から様々な仕事に関わることができ、「1年目だからこれくらいでいい」と妥協するのではなく、仕事を全うする自覚が芽生えました。

金融庁を考えている皆さんへ

金融庁は日々自分自身を成長させてくれる職場です。世の中の状況次第で仕事の内容がガラッと変わります。毎日が新しいことだらけで勉強の日々ですが、それがとても刺激になります。

金融庁は入庁の段階で経済や法律に詳しくなくても問題ありません。悔いのない就職活動のためにも、まずは説明会や官庁訪問にお越しいただき、様々な人の話を聞く中で、金融庁の雰囲気を感じてください！

採用案内

採用チームからのメッセージ

求める人材像

金融行政のプロフェッショナルとなるポテンシャル・意欲のある方。

- ・金融だけでなく経済・産業や社会全体に対してアンテナを高く張り巡らす ——— 「視野の広さ」「好奇心」
- ・法律、経済、会計、語学、IT、データ分析……など幅広い分野の知識を吸収する ——— 「向上心」
- ・自由な発想で最適な政策を提案する ——— 「柔軟なアタマ」
- ・自らの手で日本を良くし、国民の幸せに貢献したい ——— 「気概」「志」

採用実績

* () 内は女性数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
総合職	11(5) 人	15(7) 人	13(4) 人	13(5) 人	15(5) 人	13(6) 人	14(4) 人
一般職	25(12) 人	18(9) 人	26(9) 人	22(9) 人	24(8) 人	27(13) 人	32(12) 人

勤務地

東京（金融庁本庁）での勤務が中心となりますが、本人の希望や職務の要請に応じて地方・海外勤務もあります。

■ 金融庁本庁以外の勤務先（2021年4月1日現在の例）

国内	○各地の財務局：関東財務局、東北財務局、近畿財務局 等 ○他省庁：財務省、経済産業省、厚生労働省、警察庁 等 ○民間企業・大学等：日本銀行、日本政策投資銀行、東京証券取引所、NTTデータ、日立製作所、デンソー、東急不動産、東京大学 等 ○地方自治体：石巻市、川崎市 等
国際機関	パーゼル銀行監督委員会（BCBS）、金融安定理事会（FSB）、証券監督者国際機構（IOSCO）、 保険監督者国際機構（IAIS）、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）等
海外当局・在外公館等	在ニューヨーク日本国総領事館、在英国日本国大使館、欧州連合日本政府代表部、在ブラジル日本国大使館、在インド日本国大使館、 在シンガポール日本国大使館、在中国日本国大使館、在ドバイ日本国総領事館、在エジプト日本国大使館、 ミャンマー財務省、JETRO（香港）、ジョージタウン大学 等

よくあるご質問

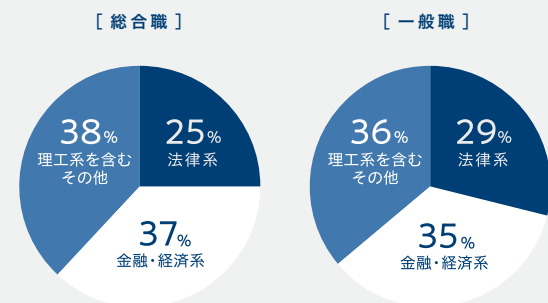
法律系や理工系など、大学（大学院）で金融・経済を学んでこなかった学生でも採用されますか？

直近5年間の新規採用者の出身学部（専攻）は右図の通りです。金融行政には、金融・経済、法律はもちろん、ほかにも多くの分野の知識が必要です。そのため、金融・経済系や法律系のほか、理工系など多様な専攻分野を持つ方を採用しています。

また、官庁訪問に臨むにあたり、金融・経済の専門知識は必要ありませんが、興味・関心は持っていてほしいと考えています。業務に必要な金融・経済の専門知識は、入庁後に実務を通じて身につけることが可能です。しかし、入庁後にこうした専門知識を学ぶ上では、金融・経済に対する興味・関心と、課題のある現状を変えようという想いを持っていることは必要です。官庁訪問の際にも、皆さんが金融・経済についてどういった想いを持っているのか、お聞きすることがあります。

業務において英語力は要求されますか？

金融はいまも昔もグローバルですから、もちろん、入庁後の業務においては英語力が要求されることがあります。官庁訪問時、英語力によって足切りを設けることはありませんが、英語力向上に向けた意欲は持っていてほしいと考えています。なお、金融庁は、職員の英語力向上をサポートすべく、充実した海外留学制度や語学研修を有していますので、入庁後継続的に英語力を高めていくことが可能です。



MESSAGE

「金融」で未来をデザインしませんか？

このパンフレットを手にとってくださった皆さんは、金融を取り巻く行政課題が、想像以上に多岐にわたることを実感していただけたのではないのでしょうか。

金融は、変化のスピードが非常に速い分野です。AIやブロックチェーンといった技術革新を背景に、フィンテックと呼ばれる新しい金融サービスが次々に生まれ、金融のあり方を変えつつあります。

金融を通じて実現すべき「豊かさ」も多様化しています。持続可能な社会への意識の高まりを受けて、環境・社会課題解決の促進を金融から実現する、サステナブルファイナンスという分野が注目されています。

さらに、少子高齢化の進展や、新型コロナウイルス感染症の拡大など、世界の不確実性は高まっています。

そんな中、金融庁の変わらない使命は、経済のインフラである金融システムの安定と発展を通じて、個人・企業・社会全体が、より豊かさを享受できる未来をデザインすることです。

変化に対応するためには、好奇心旺盛で、柔軟な発想ができ、この国を良くしたいという志をお持ちの、若い皆さんの力が不可欠です。幅広い視野を持ちながらも、一人ひとりが金融行政のプロフェッショナルとして成長できる環境で、ぜひ一緒に働きませんか。

金融庁 採用チーム一同

